



// 人生で唯一不変なものは変化である。
—ヘラクレイトス (古代ギリシャの哲学者)



注: 本記事は[Extended SAFe Guidance](#)の一部であり、ビッグピクチャーから直接アクセスできない公式のSAFeコンテンツです。

SAFe 6.0の変更点

SAFe 6.0は、最新かつ最も効果的なリーンアジャイルプラクティスを提供します。これにより、未来志向のエンタープライズは、現代の急速に変化する課題や機会に対応できるようになります。

SAFe 6.0を導入する理由

パンデミックという前例のない時代は、何十年にもわたって進行してきた現実を強調したにすぎません。エンタープライズは常に押し寄せる変化に圧倒されています。カスタマーによる期待、サプライチェーンの複雑さ、デジタルテクノロジーの影響など、変化のペースはかつてないほど速く、変化自体がますます予測できないものになっています。

数多くのグローバル企業や政府機関にとって、SAFeは変化への適応、回復力の向上、そして現代のデジタルビジネスとして成功するために不可欠なものになっています。市場の新しい現実に対応するために、SAFeは常に進化することが求められています。SAFeの核となる利点は見失うことなく、新しく発生した課題に対処するために継続的にガイダンスを改善しています。

Work Differently Build the Future

私たちの新しいローガン「働き方を変える。未来を作る」は、働き方を変えることでイノベーションを加速し、市場の混乱や機会に適切に対応できるという考えを表しています。働き方を変えるとはどういうことでしょうか？ 第一に、組織全体が同じリーンアジャイルのマインドセットとプラクティスを導入する必要があることがますます明白になり、今では実証されています。マーケティングや財務から、セキュリティや人事まで、そしてその間にいるすべての人々にまでこれを実現することで、現在最も成功しているエンタープライズは戦略と実行のベクトルを合わせ、現在および将来の顧客の期待に応えています。

最新のテクノロジー（AI、ビッグデータ、クラウド）をバリューストリームに組み込むことは、働き方を変えるためにますます重要になっています。最新テクノロジーによってアプリケーション開発の性質が変化し、組織が今後成功するかどうか左右されます。さらに、バリューフローを加速し、測定可能なビジネスアウトカムをデリバリーしなければならないというプレッシャーは、とどまるところを知りません。これを達成するために、アジャイルチームの力がかつてないほど重要になっています。

SAFe 6.0の紹介

SAFe 6.0はバージョン5.1を広範囲にアップデートしたものであり、多くの新しい高度なプラクティスと、新しいビッグピクチャー（BP）と用語の更新を含みます（図1）。

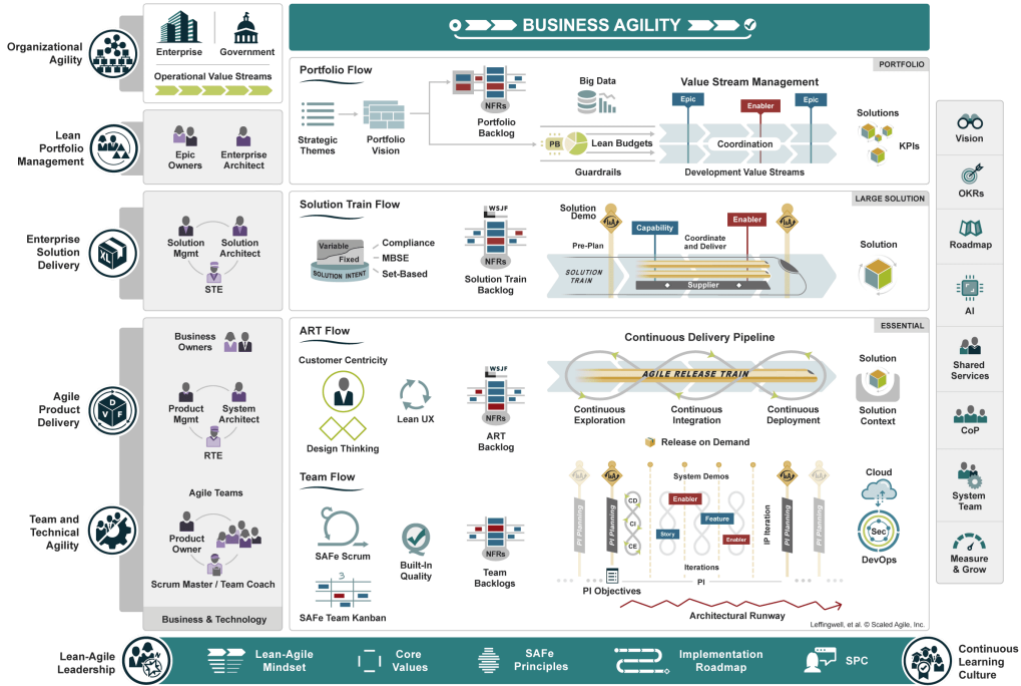


図1. 新しいSAFe 6.0のビッグピクチャー

SAFe 6.0のアップデートには、図2に示す主な6つのテーマがあります。

- 1 ビジネスアジリティの基盤を強化する
- 2 チームを支援し、責任をより明確にする
- 3 バリューフローを加速する
- 4 SAFeでビジネス全体のアジリティを強化する
- 5 AI、ビッグデータ、クラウドで未来を構築する
- 6 メジャー＆グローとOKRでより優れた成果を達成する

図2. SAFe 6.0アップデートの6つの主要テーマ

これらの各テーマについて以降のセクションで説明します。

① ビジネスアジリティの基盤を強化する

デジタル時代にはあらゆるものが速く変化します。カスタマーの要求、競合他社の脅威、テクノロジーの選択、ビジネスの見通し、収益の機会、ワークフォースのデマンドなどは、今ではほとんど一瞬のうちに発生します。これらの課題に対処するためには、ビジネスアジリティを実現することで、革新的でデジタル化されたビジネスソリューションによって市場の変化や新しい機会にすばやく対応し、デジタル時代で競争力を維持して成功する必要があります。

ビジネスアジリティバリューストリーム (図3) と**SAFeファウンデーション** (図4) などのビジネスアジリティの基盤的な側面は、「働き方を変える。未来を作る」をさらにサポートできるように大幅にアップデートされました。SAFeインプリメンテーションロードマップのアップデートとSPCの責任の改訂により、変革を進めるための道筋が明確になりました。以下で詳しく説明します。

- **ビジネスアジリティバリューストリーム (BAVS)** - 新しく導入されたBAVSは、デジタル時代に競争力を維持し、成功するための重要な要素として、ビッグピクチャーの一番上に追加されました。BAVSにより、組織は革新的でデジタル化されたビジネスソリューションによって市場の変化や新しい機会にすばやく対応できます。



図3. ビジネスアジリティのパターンとBAVS

- **SAFeファウンデーション** - 図4のアイコンで示されるすべての記事は、ビジネスアジリティのサポートをさらに強化するように補強され、以下のようにデザインも変更されました。



図4. SAFeファウンデーション

- **リーンアジャイルマインドセット** - リーンアジャイルマインドセットは、「リーンシンキング」の5つのプリンシプルと、アジャイルソフトウェア開発宣言 (図5) によって表されます。

リーンシンキング

トリガー → ステップ 1 → ステップ 2 → ステップ 3 → 繰り返す → トリガー

リードタイム

カスタマー

ソリューション (バリュー)

プリンシプル

- 1 プロダクトごとのバリューを明確に指定する
- 2 各プロダクトのバリューストリームを特定する
- 3 途切れることのないバリューフローを実現する
- 4 カスタマーが生産者からバリューを引き出せるようにする
- 5 完璧さを追求する

アジャイルバリュー

私たちは、ソフトウェア開発の実践、あるいは実践を手助けする活動を通じて、よりよい開発方法を見つけだそうとしている

この活動を通して、私たちは以下の価値に至った

プロセスやツールよりも個人と対話を

包括的なドキュメントよりも動くソフトウェアを

契約交渉よりも顧客との協調を

計画に従うことよりも変化への対応を

価値とする。すなわち、左記のことがらに価値があることを認めながらも、私たちは右記のことがらにより価値をおく

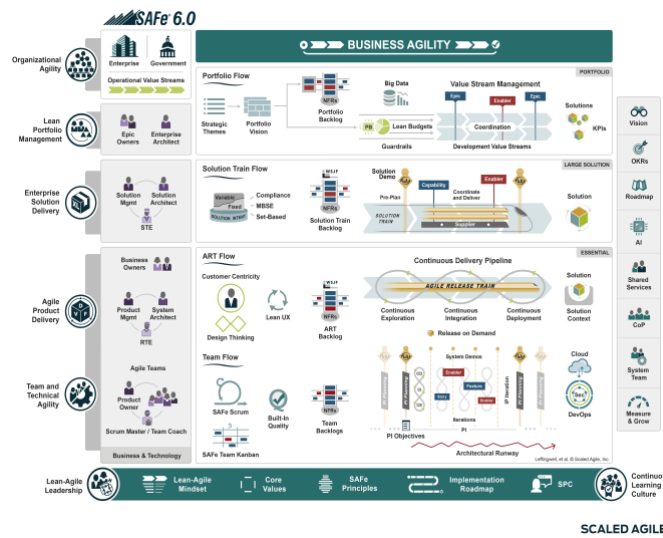
<https://agilemanifesto.org/>

図5. リーンアジャイルマインドセット

- ハウスオブリーンは廃止されました。すべての理念がフレームワーク全体に組み込まれ、より効果を発揮しているためです。以下はその例です。
 - 「人々を尊重する」は、人間の基本的な要求のため、SAFeコアバリューの1つとなりました。人々を尊重することで、彼らに本来備わっている学習と成長、習慣の改善、ビジネスとカスタマーの成果に対する貢献へのモチベーションを引き出すことができます。
 - フローは新しいSAFeプリンシプル#6「途切れることのないバリューフローを実現する」に組み込まれ、バリューストリームマネジメント (VSM) を支えています。
 - イノベーションは継続的スラッシングカルチャーのコンピテンシーの一部となりました。このコンピテンシーはSAFeファウンデーションに追加され、今後のリリースで拡大される予定です。
 - たゆまぬ改善はSAFeコアバリューの1つとなりました。たゆまず完璧さを追及することは、常に核となる概念の1つだったためです。リーンの理念。完璧を実現することはできないもの、それを追及することは、プロダクト、サービス、プロセスの継続的な改善につながります。コアバリュー - 前述の変更により、SAFeの
 - コアバリュー - 4つのコアバリュー (図6) は「バクトルを合わせる」、「透明性」、「人々を尊重する」、「たゆまぬ改善」に変更されました。さらに、この変更は他のコンセプトとの重複を避けるためでもあります。たとえば、ビルトインクオリティはチーム&テクニカルアジリティのコアコンピテンシーの側面として、また同名の記事で強調されています。

たゆまぬ改善

バクトルを合わせる



透明性

人々を尊重する

図6. アップデートされたSAFeコアバリュー

- SAFeプリンシプル** - リーンシンキングの5つのプリンシプルに合わせ、プリンシプル#6が変更されました (図7)。ここでは、フローベースシステムに共通する8つの性質も強調されています。また、フローの阻害要因を排除する具体的なアクセラレーターも提示されています。さらに、プリンシプル#6と#8は、アップデートされた理念に合わせて変更されました。また、プリンシプル#9はいつ、どのように意思決定を分散するかをより分かりやすく説明するように修正されました。

#1 経済的な視点を持つ

#2 システムシンキングを適用する

#3 バラツキを前提とする。オプションを持ち続ける

#4 迅速で統合されたラーニングサイクルでインクリメンタルに構築する

#5 マイルストーンは動作するシステムの客観的な評価に基づく

#6 途切れることのないバリューフローを実現する

#7 ケイデンスを適用する。分野横断のプランニングでシンクロナイズする

#8 ナレッジワーカーの内発的なモチベーションを解放する

#9 意思決定を分散する

#10 バリューを中心に組織を編成する

図7. SAFe 6.0のプリンシプル

- SAFeインプリメンテーションロードマップ** - フレームワークの導入に不可欠な手順を示すSAFeインプリメンテーションロードマップは、SAFe 6.0の変更を反映するようにアップデートされました (図8)。

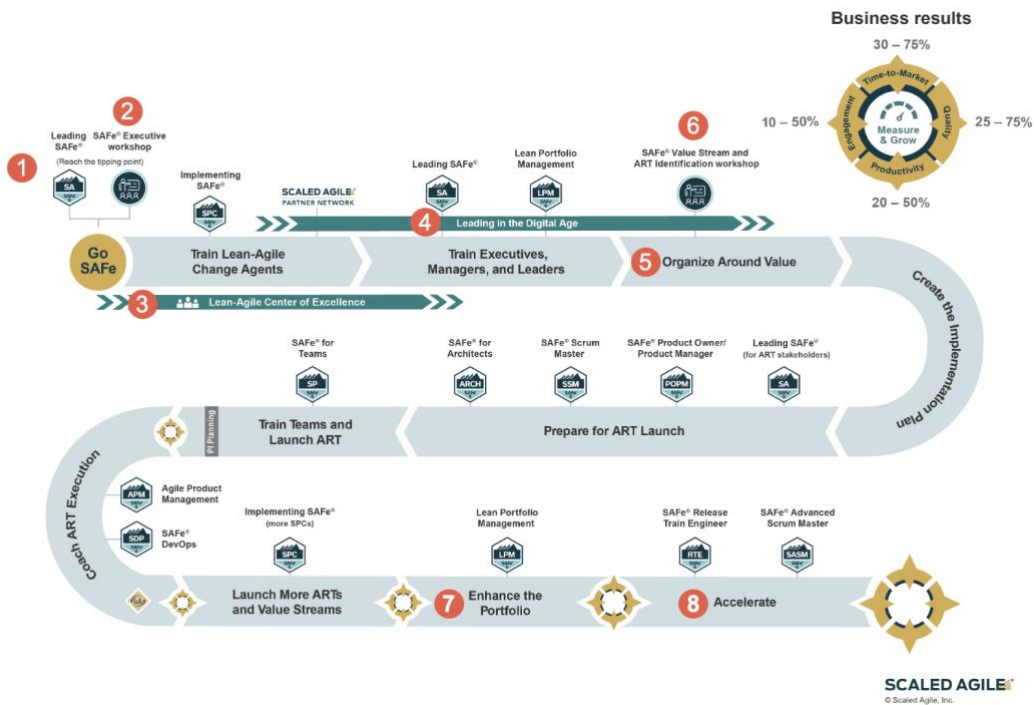


図8. 新しいインプリメンテーションロードマップ

- **ウォーターフォール型 / その場限りのアジャイルステップ**は、開始地点から削除されました。SAFeの導入は必ずしもこれらのうちのいずれか1つから始まるわけではないためです。
 - **SAFeエグゼクティブワークショップ**ツールキットが「Go SAFe」ステップに追加されました。
 - **リーンアジャイルセンターオブエクセレンス** – 責任が修正および明確化されました。
 - 「**デジタル時代にリードする**」がロードマップに追加されました。このプログラムは、アジャイルチームをサポートし、変革を効果的に管理するための知識とスキルをリーダーに提供します。
 - 「**バリューを中心にオーガナイズする**」は、その目的と、プリンシプル#10とのつながりを反映するために、「ARTとバリューストリームを特定する」から改名されました。
 - **SAFeバリューストリームおよびART特定**ワークショップツールキットが、「バリューを中心にオーガナイズする」ステップに追加されました。
 - 「**ポートフォリオを強化する**」は改名後の名前です。以前は「ポートフォリオにまで拡大する」と呼ばれていました。このアップデートされたステップは、組織がプロセスの初期段階でいくつかのLPMプラクティスを実践することを推奨しています。たとえばポートフォリオカンパニシステムを実装して、現在と将来のイニシアティブを可視化することなどです。したがって、「エグゼクティブ、マネージャー、リーダーをトレーニングする」のロードマップステップで、LPMトレーニングが推奨されています。
 - 「**実装を加速する**」は、トランスフォーメーションの道のりに決して終わりはないことを強調しています。まずはコンティニューアスラーニングカルチャーを作ることに焦点を当て、たゆまぬ改善にコミットし、イノベーションの文化を促進します。
- **SAFeプラクティスコンサルタント (SPC)** – 以前はSAFeプログラムコンサルタントと呼ばれていました。SPCは、SAFeインプリメンテーションロードマップに記載されている多くのプラクティスや重要な行動に対するコーチングを提供します。さらに、SPCは尽きることのないエネルギーを持ったチェンジエージェントのグループとしてロードマップの範囲を超えて活動し、図9に示す責任分野を実行に移すことで、時間を追って組織にビジネスアジリティをもたらします。

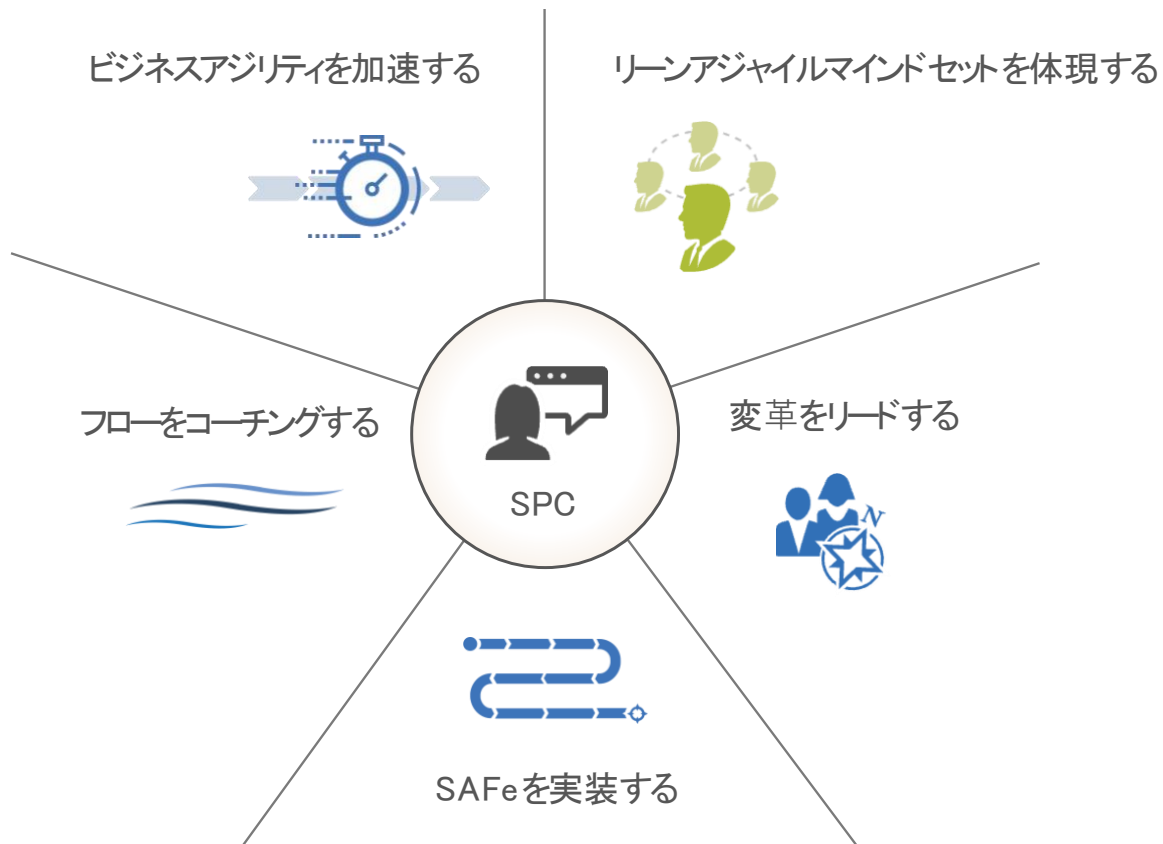


図9. SAFeプラクティスコンサルタント (SPC) の責任

- **コンティニューアスラーニングカルチャー (CLC)** – すべてのSAFeコンフィグレーションの一部とするために、CLCのコンピテンシーが基盤に追加されました。これまで、CLCはEssential SAFeコンフィグレーションには含まれていませんでした。

② チームを支援し、責任を明確にする

アジャイルチームに勝るものはありません。そして、パフォーマンスをさらに高めるには、SAFeの各役割をより明確に示す必要があります。人々が作業のパフォーマンスを向上し、組織の目標にさらに貢献するためには、改善された新しいガイダンスが必要です。

■ 以下の役割の記事は、責任をより分かりやすく示し、説明するために改訂されました。これらの記事から引用したサムネイル画像を図10に示します。

- アジャイルリリーストレイン
- アジャイルチーム
- ビジネスオーナー
- エンタープライズアーキテクト
- エピックオーナー
- リーンアジャイルセンターオブエクセレンス
- プロダクトオーナー
- プロダクトマネジメント
- リリーストレインエンジニア
- SAFeプラクティスコンサルタント
- スクラムマスター / チームコーチ
- ソリューションマネジメント
- ソリューショントレインエンジニア
- システムアーキテクト

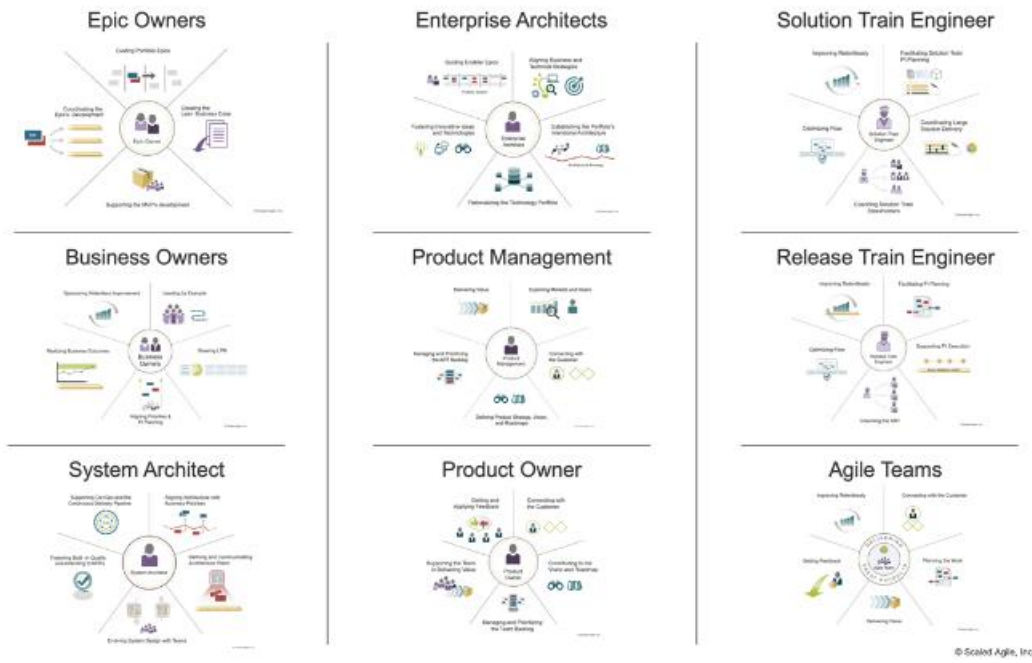


図10. 新しい責任分野のサムネイルの引用

- **スクラムマスター / チームコーチ** - スクラムマスター / チームコーチの責任は拡大され、フローの最適化、ハイパフォーマンスチームの編成、オーガニゼショナルアジリティのサポートが含まれます (図11)。組織のコンテキストに合わせて、役割名はスクラムマスターとチームコーチのいずれかを選択できます。

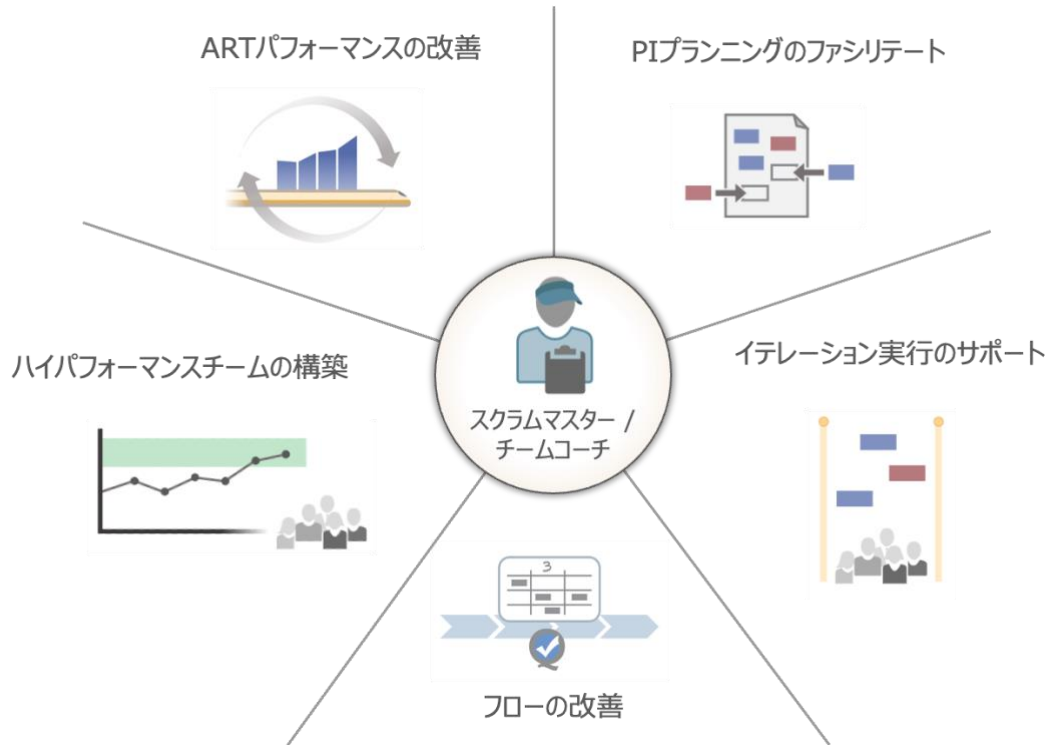
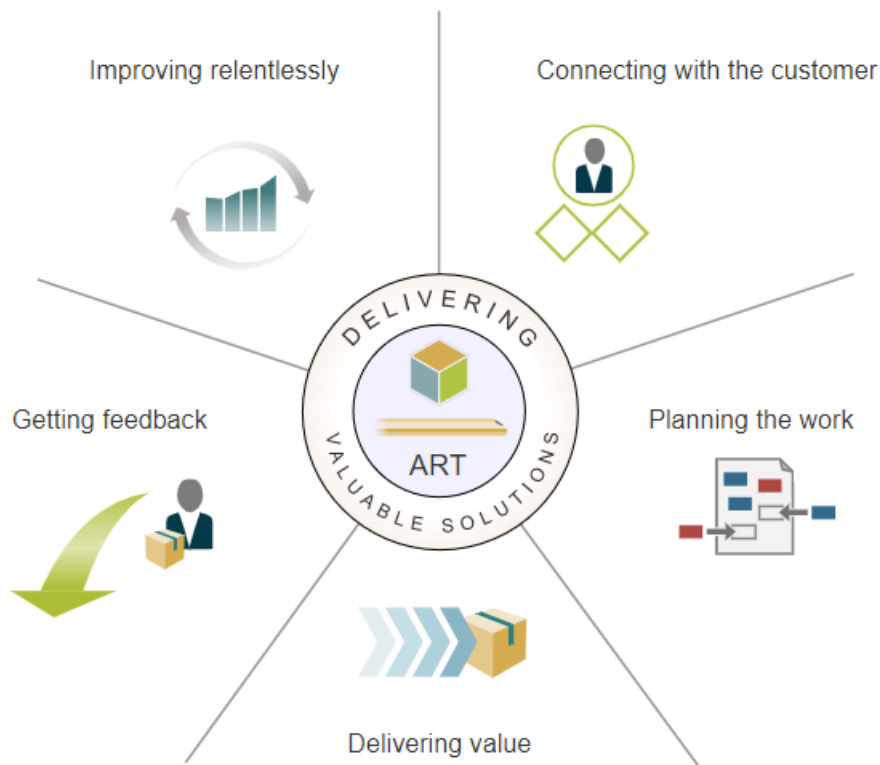


図11. スクラムマスター / チームコーチの責任

- **アジャイルリリーストレイン (ART)** - ARTの最大の目的は、カスタマーに効果的なソリューションをデリバリーすることです。ARTは、ソリューションフィーチャーの円滑なフローを確立するために不可欠です。ARTはイテレーションによってソリューションを開発し、常にカスタマーと向き合い、最適なソリューションに向けて行動を調整します。成功には、自らの責任を把握することが非常に重要です (図12)。そのため、ARTが責任をひと目で明確に理解できるように「責任のホイール」が作成されました。



© Scaled Agile, Inc.

図12. ARTの責任

- 主要なコラボレーション** – アイデアをプロダクトやサービスの安定したストリームに変換することは複雑な作業であり、継続的な調整とコミュニケーションが必要です。コンテンツ権限を持つ4つの役割の記事が改訂され、迅速で効率的なプロダクト開発フローを実現するために必要なコラボレーションパートナーシップが記載されました。これらの役割はバリューデリバリーの成功に欠かせないものの、どの役割も、それを単独で実現できる専門知識とキャパシティを十分に持っていません。

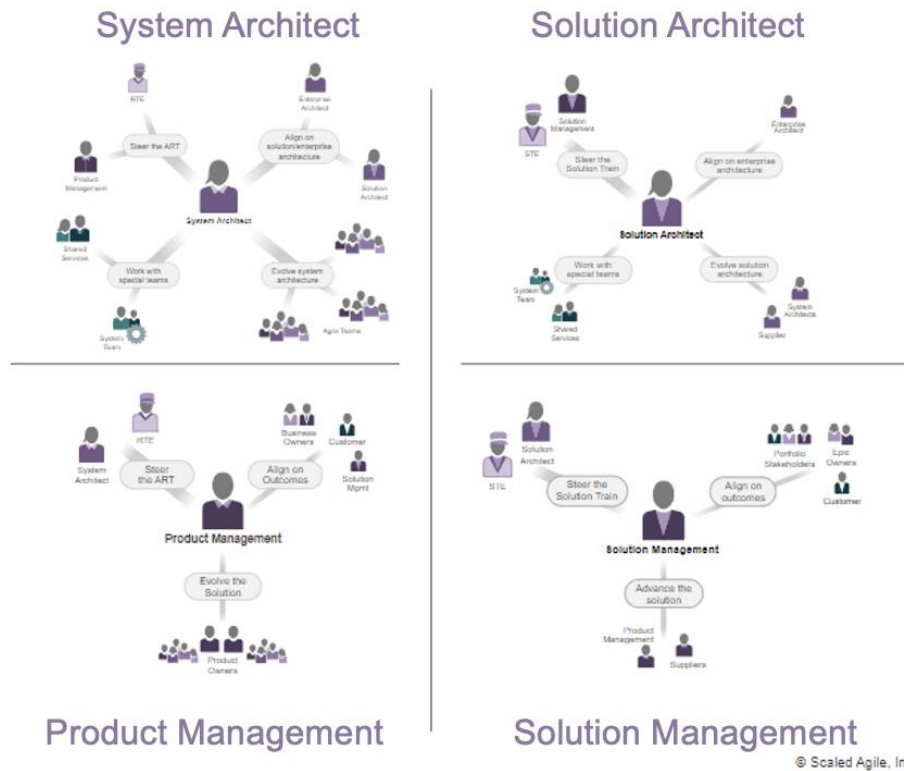


図13. コンテンツ権限を持つ役割の主要なコラボレーション

③ バリューフローの加速

現在のペースの速い世界で競争力を維持するためには、バリューフローを加速することがデジタル時代で生き残る必須のスキルとなります。

SAFe 6.0ではフローの8つの性質が定義されています。また、アップデートされたSAFeプリンシプル#6によって、バリューフローを加速する8つの関連する「フローアクセラレーター」が導入されています。さらに、新しいSAFeスクラム、SAFeチームカンバン、ビルトインクオリティ、バリューストリームマネジメントの記事は、チームの日常業務に直接フローを組み込んでいます。

- 図14に示すように、**フローに共通する8つの性質**は、SAFeでフローがどのように定義されているかを表しています。

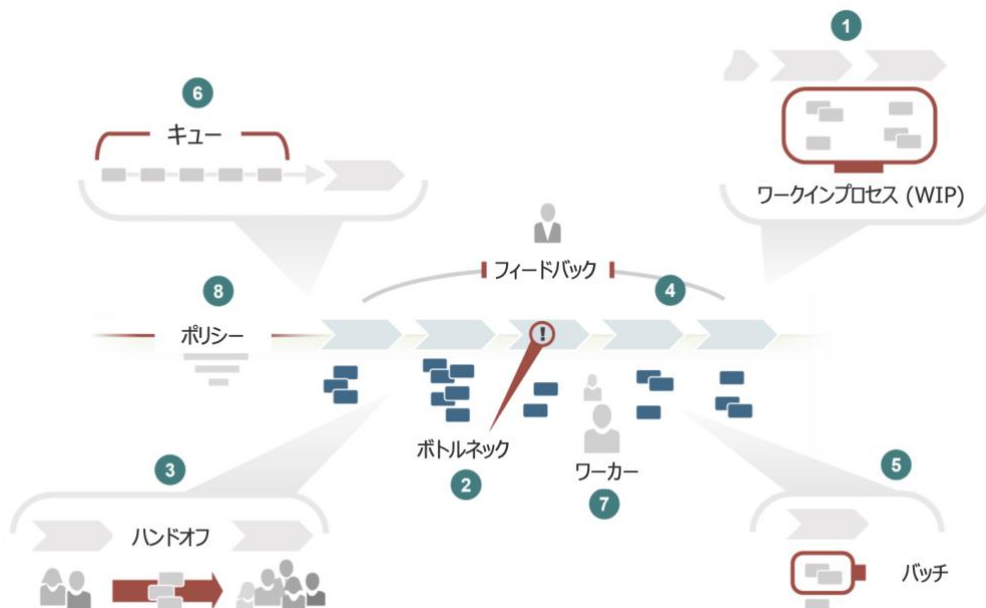


図14. フローシステムに共通する8つの性質

- **8つのフローアクセラレーター** - 図15は、8つのフローアクセラレーターによって途切れることのないバリューフローを実現（プリンシプル#6）できることを示しています。これらの強力なバリューのアクセラレーターはすべてのフレームワークレベルに関連していますが、課題はそれぞれのレベルで異なります。

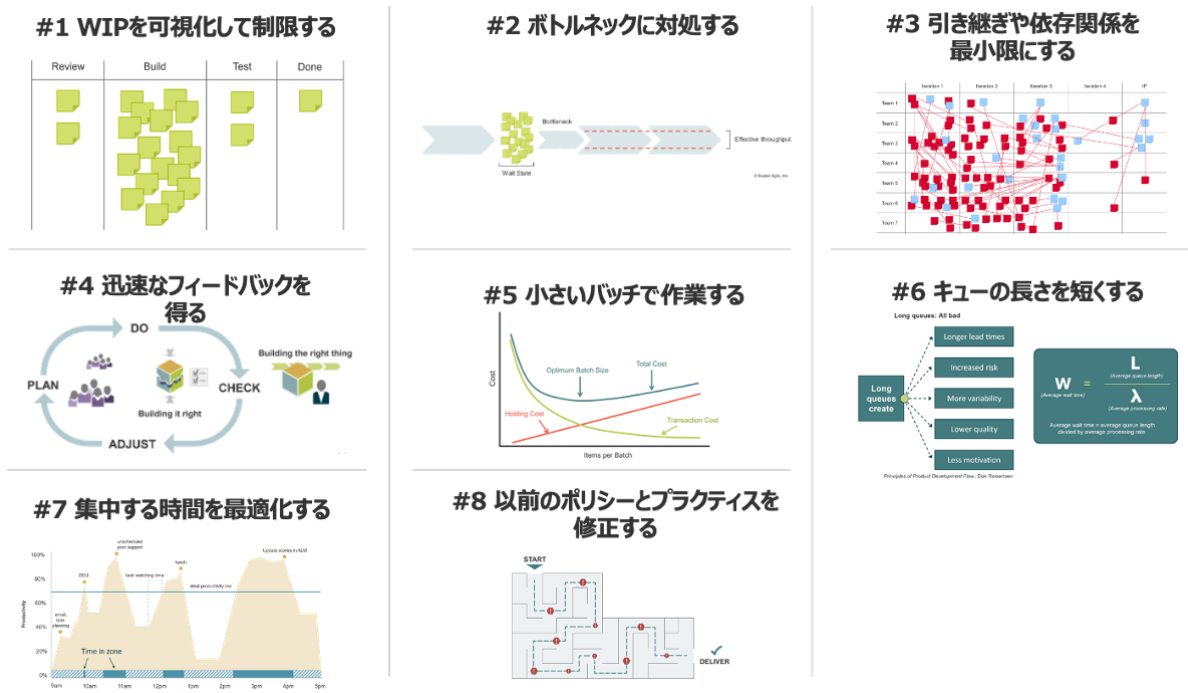


図15. 8つのフローアクセラレーター

- **4つの新しいフロー記事**、チームフロー、ARTフロー、ソリューションレインフロー、ポートフォリオフローは、プリンシプル#6の8つのフローアクセラレーターを適用することについて説明しています。これらの記事は、図16のアイコンからアクセスできます。各記事が、その特定のレベルに向けて、継続的なバリューフローによって問題に対処し、最適化し、デバッグするテクニックを提供しています。

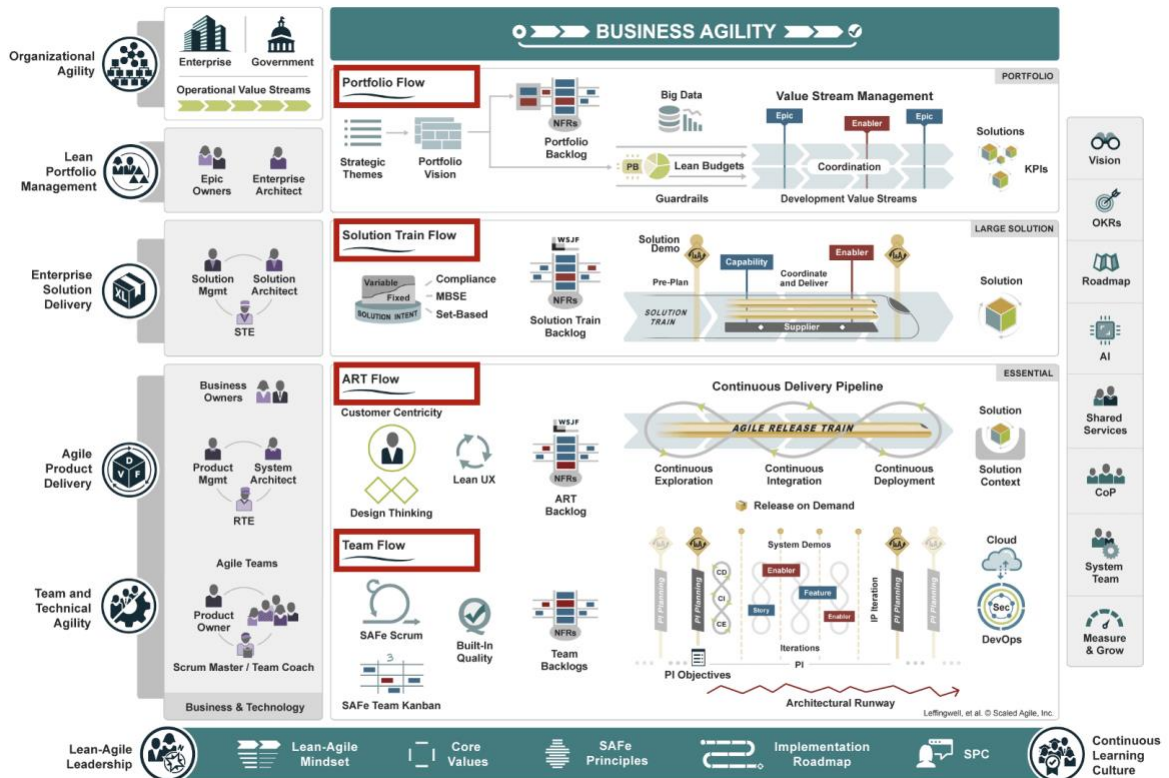


図16. 各SAFeレベルにフローアクセラレーターを適用する

- SAFeチームカンバン**は、アジャイルチームがワークフローを可視化し、仕掛かり中の作業 (WIP) 制限を設定し、継続的にバリューをデリバリーし、スループットを測定し、プロセスを改善することでバリューフローを促進するリーンアジャイルの手法です (図17)。この記事は「カンバン」から「SAFeチームカンバン」に改名され、ARTの一部として稼働するSAFeチームに向けたカンバンの使用方法を説明するために大幅に改訂されました。

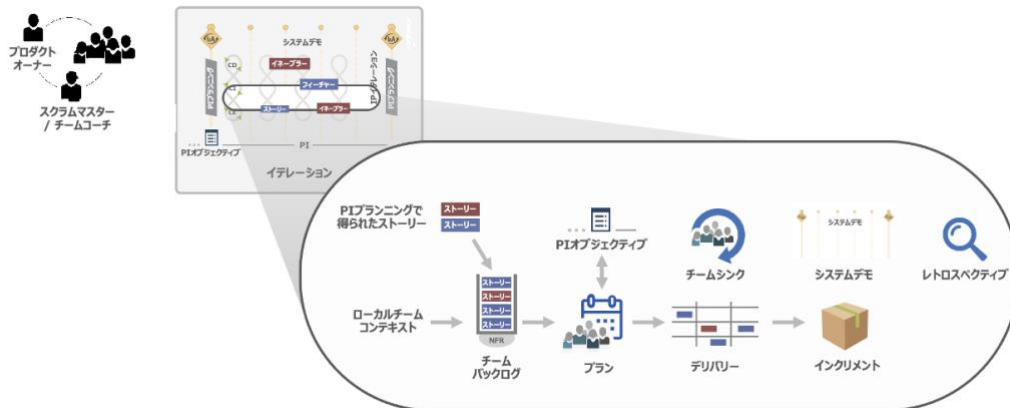


図17. SAFeチームカンバン手法の概要

- SAFeスクラム**が新しくスクラムXPから置き換えられました。また、XPに関連するプラクティスはビルトインクオリティなどの記事に移動されました。さらに、スクラムのキーストーンイメージ (図18) は、SAFeでスクラムを適用する方法を説明するために補強されました。

5.1の計画 (イテレーションプランニング)、レビュー (イテレーションレビュー)、レトロ (イテレーションレトロスペクティブ)、実行のアイコンは、ビッグピクチャーから削除され、スクラムの記事からアクセスできるようになりました。イテレーションエグゼキューションのコンテンツは、イテレーションの記事とまとめられました。

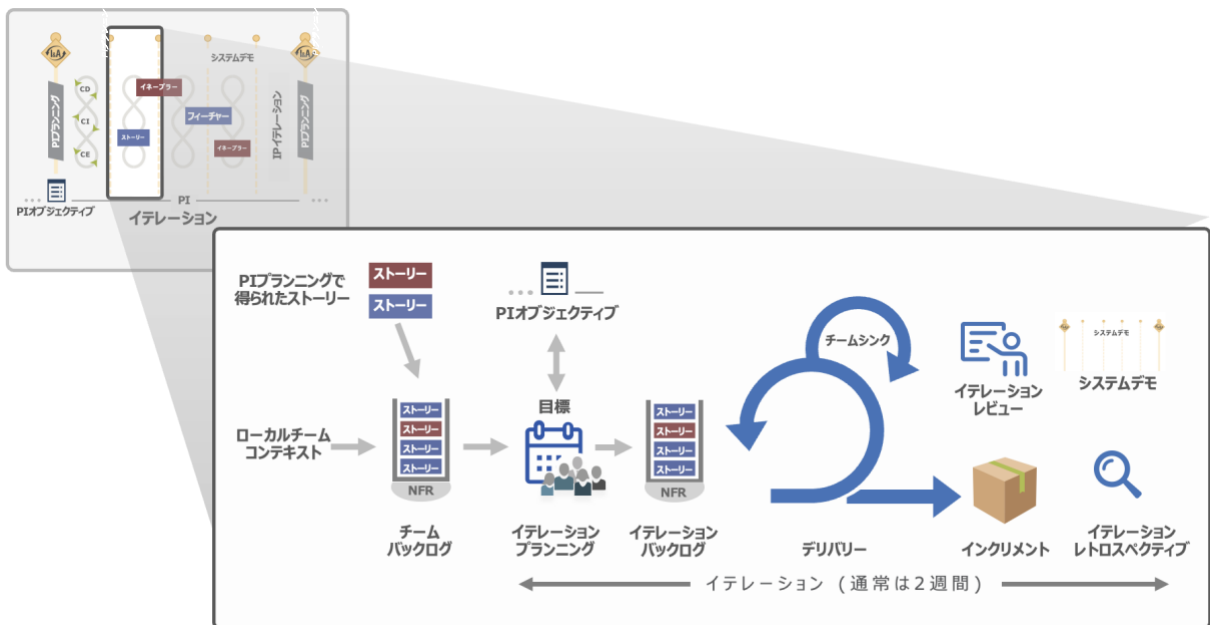


図18. SAFeスクラムサイクル

- ビルトインクオリティ** – 図19に示すように、SAFe 6.0は、すべてのテクノロジーおよびビジネス分野におけるビルトインクオリティに対して新しい革新的なアプローチを取っています。このモデルは、普遍的に適用できる基本的なアジャイルクオリティのプラクティスから始まります。たとえば学習のシフトレフト、ペアリングとピアレビュー、共同オーナーシップ、T字型スキル、アーティファクト標準と完了の定義、ワークフローオートメーションなどです。それを土台として、ビジネス機能、ソフトウェアアプリケーション、ITシステム、ハードウェア、サイバーフィジカルシステムなどの、特定の分野に適用されるクオリティプラクティスを構築します。

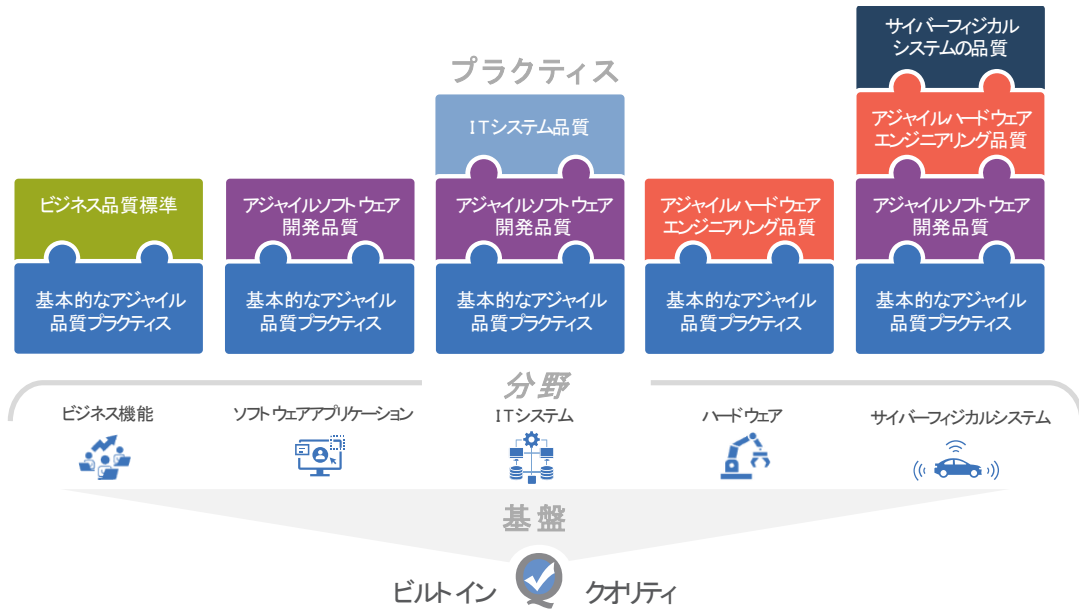


図19. ビルトインクオリティの主要な分野とプラクティス

- バリューストリームマネジメント (VSM)** – VSMは、これまで拡張ガイダンスの記事でした。ポートフォリオレベルの責任であることを強調するために、VSMはビッグピクチャー（図20）に追加されました。また、バリューストリームを管理する3つの要素についての新しいガイダンスを提供できるように補強されました。



図20. ビッグピクチャーのバリューストリームマネジメント

- **SAFeにおけるカンバンの適用** – カンバンの概要、カンバンシステムを確立する方法を提供し、SAFeの相互に関連するカンバンシステムを説明するために、SAFeにおけるカンバンの適用の拡張ガイドンスが作成されました。図21は、この新しいコンテンツの主要なイメージの引用です。

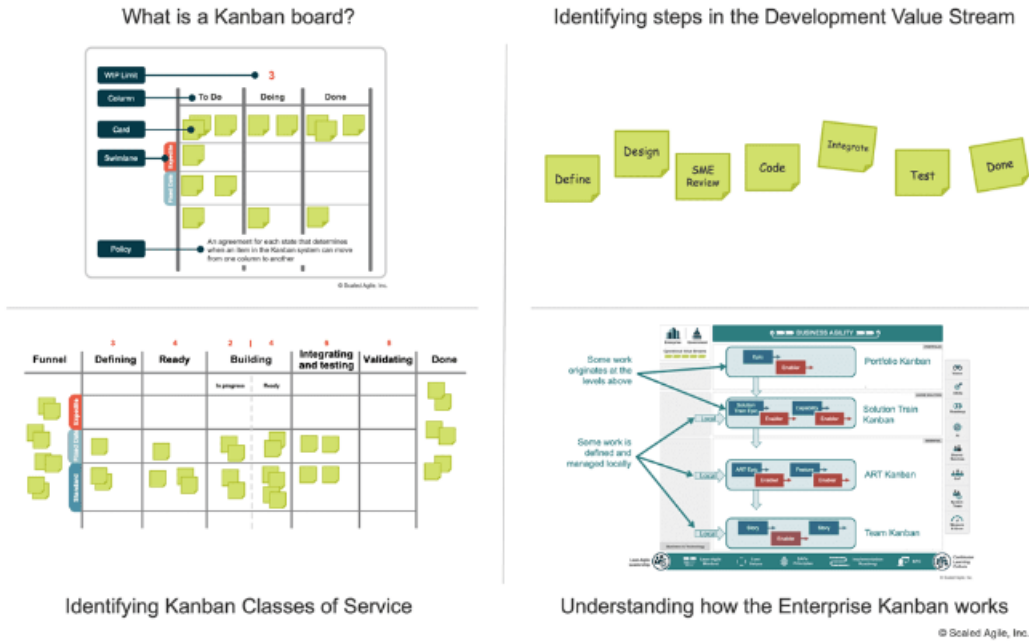


図21. SAFeにおけるカンバンの適用

④ ビジネスアジリティを強化する

リーンアジャイルトランスフォーメーションは、組織のあらゆる部分に影響を与えます。1つの部分を加速すると、他の部分のボトルネックが明らかになる場合もあります。したがって、ビジネスアジリティを実現するためには、すべての人が、フローの最適化、小さなバッチでの作業、ビルトインクオリティ、バリューを中心としたオーガナイズ、システムシンキングの使用などのリーンアジャイルプリンシプルを自身のコンテキストで適用して作業を改善する方法を学ぶ必要があります。

- **ビジネスおよびテクノロジー** – ビジネスおよびテクノロジーの記事は大幅に改訂され、5つのビジネスおよびテクノロジーのパターンを（図22）を紹介しています。これにはビジネス対応ART、ビジネスストレインのローンチ、アジャイルエグゼクティブチームの結成、他のビジネス部門へのSAFeの適用、同じポートフォリオ内のデベロップメントバリューストリームとオペレーショナルバリューストリームの統合などがあります。 それぞれについて以下の段落で説明します。



図22. 拡張されたビジネスおよびテクノロジーのパターン

- **ビジネス対応ART** - ソリューションが運用される業界を意識したものであり、テクノロジー、ビジネス、カスタマーに関連する懸念に対応できるものであることを保証するために、テクノロジーおよびビジネスの担当者を含めたARTです。
 - **アジャイルビジネスレイン**は、アジリティに向けたさらなる一歩です。アジャイルビジネスレインには1つ以上のSAFeオペレーショナルバリューストリームと、完全なビジネスソリューションを定義、構築、デプロイ、運用、営利化するために必要なすべてのARTが含まれます。
 - **アジャイルエグゼクティブチーム** - アジャイルエグゼクティブチームは組織全体のシニアリーダーシップのベクトルを合わせ、企業を1つのチームとして運営し、戦略とビジョンを1つの声として伝え、戦略的な仕掛けり中の作業に向き合えるようにします。
 - **アジャイルビジネスファンクション**は、リーンアジャイルの手法とSAFe原則を活用して運用を円滑化し、バリューデリバリーを透明化する組織ユニットです。
 - **複合ポートフォリオ** - 複合ポートフォリオはSAFeポートフォリオの1種で、開発バリューストリームとオペレーショナルバリューストリームの両方が含まれます。複合ポートフォリオにより明確な戦略的出資の意思決定ができ、ビジネスセグメント内の一連の混合されたソリューションに対してベクトルを合わせることができます。
- 「SAFe Beyond IT」のホームページから、オペレーショナルバリューストリームの実際のビジネスアジリティ体験に関する記事にアクセスできます。
SAFeプロフェッショナルが寄稿したこれらの記事は、リーン、アジャイル、SAFeのプラクティスを財務、マーケティング、人事、法務、運用などのIT以外の部門に拡張した際の成功体験と課題を紹介しています。



⑤ AI、ビッグデータ、クラウドで未来を構築する

SAFeは、ソフトウェアとシステムの開発を劇的に変革する3つの革新的テクノロジーを活用するための新しいガイダンスを提供しています。それはAI、ビッグデータ、クラウドです。これらのテクノロジーを活用することは、現在、そして将来の競争力を保つために不可欠となっています。以下の3つの新しい記事とアイコンがビッグピクチャーに追加されました。

- **AI (人工知能)** - スパニングバレットに追加されました。通常は人間の知能を必要とするタスクを実行できるさまざまなインテリジェントマシンについて説明しています。人工知能はSAFe組織が開発するソリューションに大改革をもたらすテクノロジーであり、エンタープライズの運用およびビジネスモデルに多大な影響を及ぼす可能性も秘めています。
- **ビッグデータ** - 組織の最高レベルのビジョン、投資、ガバナンスが求められるため、SAFeではビッグデータの懸念をポートフォリオレベルで取り上げています。データを生成するのはARTですが、バリューはポートフォリオやエンタープライズレベルでのデータアグリゲーションによって生まれます。ビッグデータには組織の中央からの投資が必要です。また、包括的なアプローチによって組織の各開発バリューストリームのベクトルを同じDataOpsプラクティスに対して合わせ、組織全体で使用できる一貫したデータセットを生成する必要があります。
- **クラウド** - 拡大を続けるクラウド機能は、デジタル対応のソリューションを構築、デプロイ、保守する方法を根本的に変えてしまいました。クラウドコンピューティングは、その登場以来、エンタープライズのIT部門が直面するデリバリーモデル変更の最も影響力の大きな要因となっています。当然ながら、エンタープライズが急速にクラウドに以降している一番の理由は、プロダクト開発のスピードとアジリティを向上するためです。

⑥ メジャー & グローとOKRでより優れた成果を達成する

- **メジャー & グロー** - スパニングバレットのメトリクスアイコンはメジャー & グローに改名されました。コンテンツには、図23に示すSAFeの3つの測定領域 (成果、フロー、コンピテンシー) が含まれます。このアプローチによって、SAFeのあらゆるレベルで、ビジネスアジリティに対する進捗状況を測定することが可能です。それによって得られるインサイトは、より優れた意思決定をサポートし、改善の機会を特定するために役立ちます。

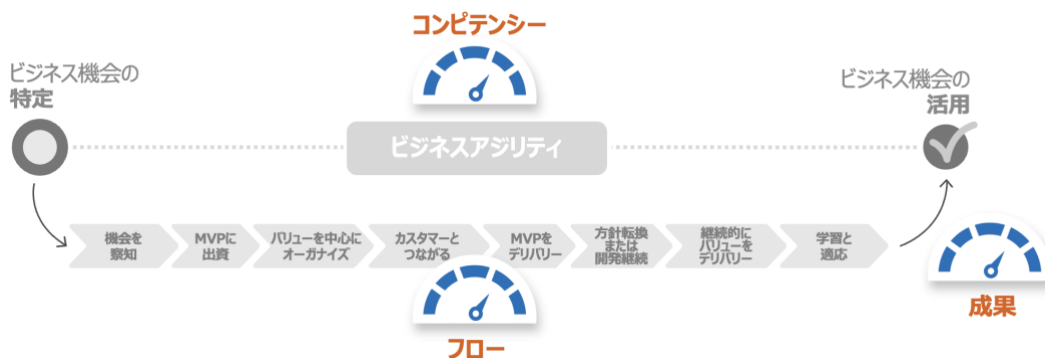


図23. SAFeの3つの測定領域

- **OKRはスパンニングバレットに追加されました。**ここから新しいガイダンス記事にアクセスできます。ここでは、図24に示し、次で説明する3つの主要なユースケースが記載されています。OKRは、ビジネスとカスタマーがより優れた成果を達成するために役立つツールとなります。SAFeにおけるOKRの使用は任意です。しかし、一般的に、OKRはポートフォリオの**ストラテジックテーマ**を説明する最適な方法です。

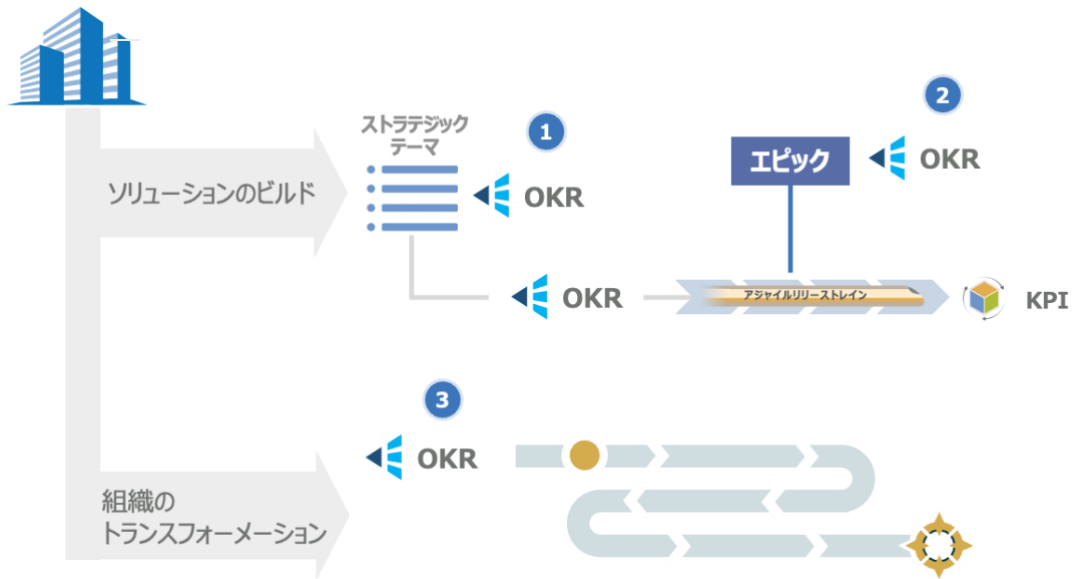


図24. SAFeでOKRを適用するユースケース

- **SAFeポートフォリオ全体で戦略的にベクトルを合わせる** - ストラテジックテーマにOKRを使用する目的は、明確で、具体的で、測定可能なアクションによって進捗状況を定義および追跡することです。
- **エピックとリーディングビジネスケースのビジネスアウトカムを定義する** - OKRを使用して、ポートフォリオカンバンシステムに入れるエピックの候補を特定できます。OKRの定義によってエピックを定義することで、求めるビジネスのアウトプットと成果を明確にできます。
- **SAFeトランスフォーメーションの改善目標を設定する** - OKRを適用することで、SAFe変革プログラムの成功を測定できます。

その他の重要な変更

- **カンバンシステムはすべてのSAFeバックログを管理します** - 各バックログはカンバンシステムで可視化されます (図25)。したがって、ガイダンスを簡素化し、重複を排除するために、各バックログシステムと関連するカンバンの記事はまとめられました。その他の関連する変更には以下があります。
 - すべてのバックログアイコンから垂直方向のカンバンラベルが削除されました。
 - すべてのカンバンシステムの「バックログ」ステータスが「準備完了」に変更されました。カンバンステータスとバックログ自体の混同を軽減するためです。

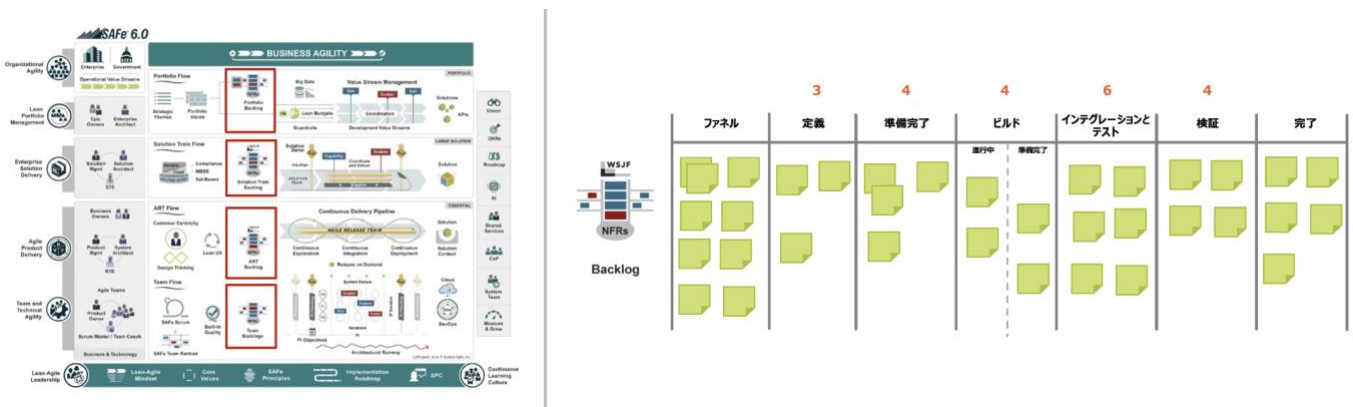


図25. カンバンアイコンとバックログステータスの変更

- **スパンングパレットの変更** - SAFe 6.0をサポートするために、以下の変更が加えられました (図26)。
 - **OKR**がパレットに追加されました。
 - **マイルストーン**は新しいロードマップの記事にまとめられ、パレットから削除されました。
 - **AI** (人工知能) がパレットに追加されました。AIはこれまでは拡張ガイダンス記事でした。
 - **リーンUX**はスパンングパレットから、ビッグピクチャー本文のカスタマーセントリシティとデザインシンキングの横に移動されました。これらの2つのプラクティスに対する関係と重要性を反映するためです。
 - メトリクスが改名されて**メジャー & グロー**になりました。

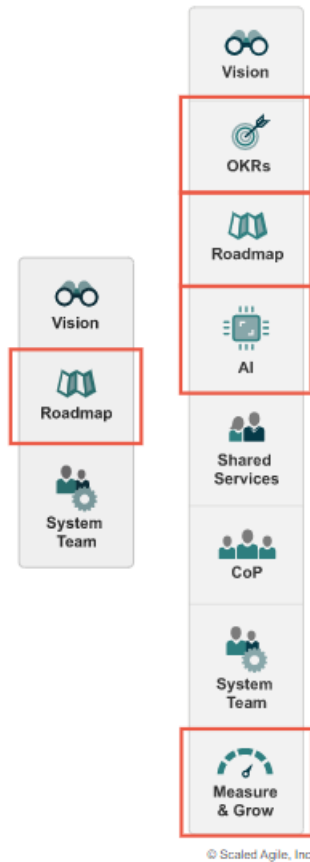


図26. スパンングパレットの変更

- **エンタープライズソリューションデリバリー** - 現場での経験とカスタマーのフィードバックに基づいて、以下の記事は、ソリューショントレインによってプランニングが管理され、ソリューションがデリバリーされることをより詳しく説明するように大幅に修正されました (図27)。
 - プリプランニングは**プリプラン**になりました。これは、ARTがPIプランニングの準備をするために不可欠なソリューショントレインのアクティビティを説明しています。
 - ポストPIプランニングは「**調整してデリバリーする**」になりました。このアップデートは、ソリューショントレインの複数のARTとサプライヤーで大規模なソリューションをデリバリーするプラクティスについて説明しています。

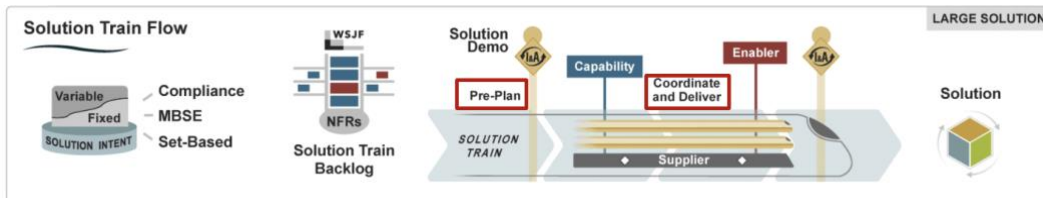


図27. エンタープライズソリューションデリバリーに向けた、新しいプリプランと「調整してデリバリーする」のプラクティス

- **ART用語の統一** – プログラムの用語が、フレームワーク全体で、ARTを使用したものに変更されました。用語を統一することで、簡素性と明確性が向上します。

変更前	変更後
アジャイルプログラムマネジメントオフィス	バリューマネジメントオフィス
プログラムバックログ	ARTバックログ
プログラムバックログ	ARTプランニングボード
プログラムエピック	ARTエピック
プログラムの実行	ARTの実行
プログラムインクリメント	プランニングインターバル
プログラムカンバン	ARTカンバン
プログラムPIオブジェクト	ART PIオブジェクト
プログラム予測精度の測定	ART予測精度の測定
プログラムリスク	ART PIリスク
SAFeプログラムコンサルタント	SAFeプラクティスコンサルタント (SPC)

© Scaled Agile, Inc.

表1. 統一されたART用語

- **ソリューション用語の統一** – ソリューショントレインのアーティファクトとイベントが統一されました (表2)。

変更前	変更後
ソリューションアーキテクト / エンジニア	ソリューション アーキテクト
ソリューションバックログ	ソリューショントレインバックログ
ソリューションボード	ソリューショントレインプランニングボード
ソリューションエピック	ソリューショントレインエピック
ソリューションカンバン	ソリューショントレインカンバン
ソリューションPIオブジェクト	ソリューショントレインPIオブジェクト

© Scaled Agile, Inc.

表2. 統一されたソリューション用語

- 一貫性向上のために**変更されたその他の用語**を以下の表3に示します。

変更前	変更後
デイリースタンドアップ	チームシンク
リーンシステムとソリューションエンジニアリング	リーンシステムエンジニアリング
プリンシプル#6 - WIPを可視化して制限し、バッチサイズを減らし、キューの長さを管理する	プリンシプル#6 - 途切れることのないバリューフローを実現する
スクラムオブスクラムズ	コーチシンク
スクラムXP	SAFeスクラム

© Scaled Agile, Inc.

表3. その他の用語の変更

最終更新日: 2023年1月2日

このページの情報は2010年から2023年までの期間にScaled Agile, Inc.によって制作され、米国および国際著作権法で保護されています。著作権所有者の書面による

明示的な許可なくこのサイトの画像やテキストを複製することは禁止されています。Scaled Agile FrameworkおよびSAFeはScaled Agile, Inc.の登録商標です。

許可を得るには[許可に関するFAQ](#)と[お問い合わせ](#)をご覧ください。